

公文書にみる



昭和100年記念展第2弾(第21回企画展)

昭和の戦争の記録

令和8年

8月24日(月) ▶ 11月19日(木) ※土日、祝休日を除く

滋賀県立公文書館

Tel 077-528-3126

【展示概要】

期間 令和8年8月24日(月)～令和8年11月19日(木)

日時 月曜日～金曜日(祝休日を除く)

午前9時～午後5時

会場 滋賀県立公文書館(県庁新館3階)

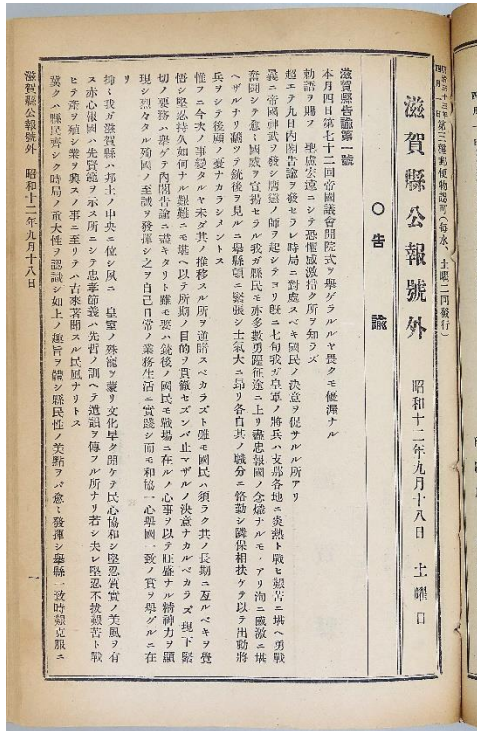
内容 特定歴史公文書等、県公報など21点ほか

令和8年(2026年)は、昭和元年から起算して満100年を迎える節目の年です。また、令和7年(2025年)8月には、アジア・太平洋戦争の終結から80年を迎えました。昭和の戦争の記憶が薄れつつあるいま、今回の企画展では当館所蔵の歴史公文書等から、戦時下の滋賀県の様子を御紹介します。

展示で取り上げる期間は、昭和6年(1931年)に起きた満州事変から、昭和20年(1945年)8月のアジア・太平洋戦争の終結までの15年間が中心です。この期間、本県からも多くの県民が出征し、県内に残る人々も厳しい銃後生活を強いられました。当時の政府はどのようにして国民の総力を戦争へと向かわせたのでしょうか、また県内にはどのような軍用施設があったのでしょうか。当館に残る戦時下の知事告諭(メッセージ)や、旧軍用施設台帳・図面、国策宣伝ポスターなどから、当時の状況を振り返ります。

序章 告諭にみる戦局

戦時下、知事は重要な局面になると県民への告諭（メッセージ）を発していました。その告諭からは、当時の戦局を垣間見ることができます。

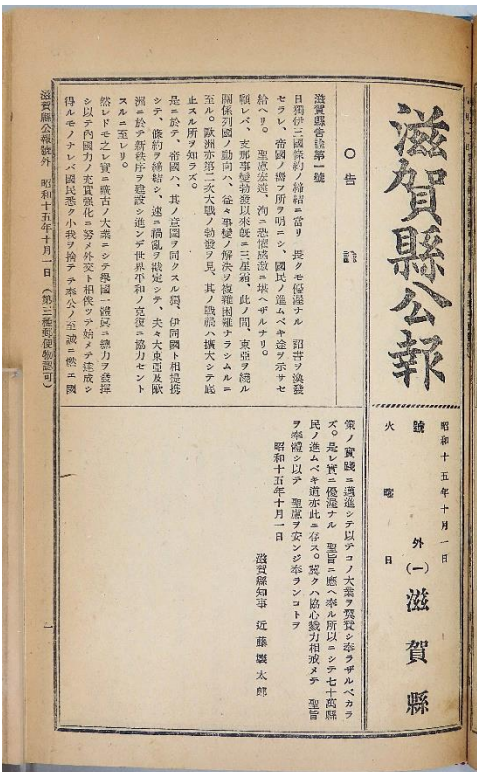


0-1 「時局に対処すべき国民の決意を促す」

昭和 12 年（1937 年）9 月 18 日

昭和 6 年の満州事変により日本と中国の関係が悪化する中、昭和 12 年 7 月 7 日の盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が始まりました。本資料は、その 2 か月後の「満州事変記念日」（9 月 18 日）に、当時の知事・平敏孝が出した告諭です。この度の戦争は長期にわたるという覚悟や「銃後ノ国民モ戦場ニ在ル」思いで仕事や生活をするとともに、「民心協和」「堅忍質実」の県民性を発揮し、厳しい戦争の時代を、心をひとつにして突き進むよう告げています。

「県公報号外 昭和 12 年 9 月 18 日」（県民情報室蔵）

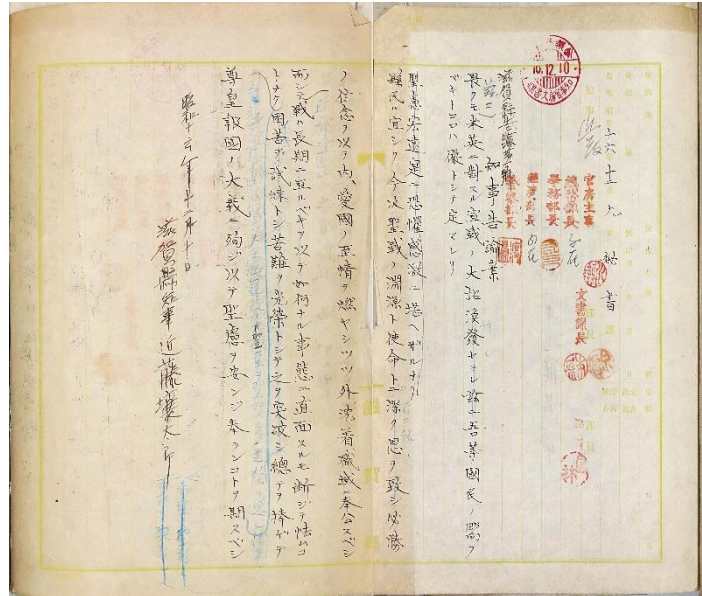


0-2 「日、独、伊三国条約締結に当り詔書を渙発に際し県民に対する告諭」

昭和 15 年（1940 年）10 月 1 日

昭和 14 年のドイツによるポーランド侵攻により第二次世界大戦が勃発します。日本は、ヨーロッパで勢力を伸ばしていたドイツと同盟を結ぶことで、長期化する日中戦争を打開しようとした。この同盟により、日本はイギリスやアメリカなどの連合国と対立することとなります。本資料は、昭和 15 年 9 月 27 日の日独伊三国同盟締結時に公布された詔書を受け、当時の知事・近藤壤太郎が発した告諭です。志を同じくするドイツ・イタリアとともに、アジアと欧州の新体制を確立し、世界平和の回復に協力するために同盟を結んだと説明しています。

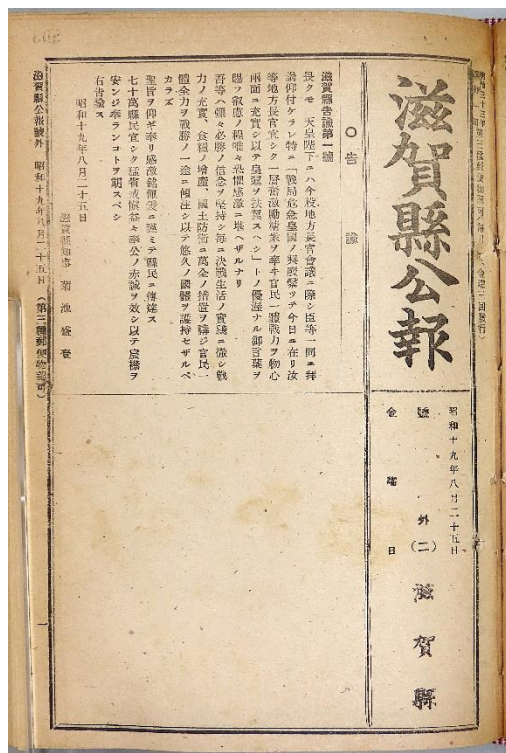
「県公報号外 昭和 15 年 10 月 1 日」（県民情報室蔵）



0-3「米英に対する宣戦の大詔に関する告諭」

昭和 16 年（1941 年）12 月 10 日

昭和 16 年 12 月 8 日に公布された米英両国に対する宣戦布告の詔書を受け、当時の近藤知事が発した告諭です。同日、日本はハワイ真珠湾の米海軍基地に対し奇襲攻撃をしかけており、アジア・太平洋戦争が始まりました。近藤知事は、どのような事態に直面しても決して怯むことなく、すべてを捧げて「尊皇報国ノ大儀」に殉じるよう告げています。【昭あ 154-5（1）】



0-4「聖旨を仰ぎ県民に伝達す」

昭和 19 年（1944 年）8 月 25 日

昭和 18 年頃から次第に戦局が悪化し、昭和 19 年にはパラオ・ペリリュー島やマリアナ諸島が次々と陥落していきます。マリアナ諸島にアメリカ軍の大規模な航空基地が建設されたことにより、日本の国土の大半が B-29（アメリカの重爆撃機）の爆撃圏内に入りました。また、フィリピン・レイテ島周辺でも大規模な戦闘がはじまり、戦局はますます悪化します。本資料は、本土空襲が迫る昭和 19 年 8 月に、当時の知事・菊池盛登が出した告諭です。戦局は厳しいが「必勝」を信じ、官民一体で全力を戦勝に注ぐよう告げています。

「県公報号外 昭和 19 年 8 月 25 日」（県民情報室蔵）

1章 出征する県民

満州事変頃の文書を中心に、徴兵のしくみや兵事事務について取り上げます。

29

昭和五年徴兵検査順序並受検予定人員		検査日	検査場所	検査時間	検査人員	検査結果
四月十日	午前七時	坂本村	五五	一七一		
四月十一日	午前七時	下坂本村	三三			
四月十二日	午前七時	不村	一〇二			
四月十三日	午前七時	真野村	二二			
四月十四日	午前七時	小松村	三八			
四月十五日	午前七時	石山村	一〇五			
四月十六日	午前七時	和達村	三三			
四月十七日	午前七時	戸村	二二			
四月十八日	午前七時	戸村	二二			
四月十九日	午前七時	戸村	二二			
四月二十日	午前七時	戸村	二二			

1-1「昭和5年徴兵検査順序並受検予定人員」

昭和5年（1930年）3月15日

昭和2年に制定された「兵役法」により満20歳になる男子は徴兵検査を受け、甲種、乙種、丙種、丁種のランクを付けられました。身体検査で現役に適するとされた者（甲種・乙種）は、さらにランクごとに抽選で徴集順序が決められました。本資料には、昭和5年に行われた徴兵検査の村ごとの検査時間と人数が記されています。

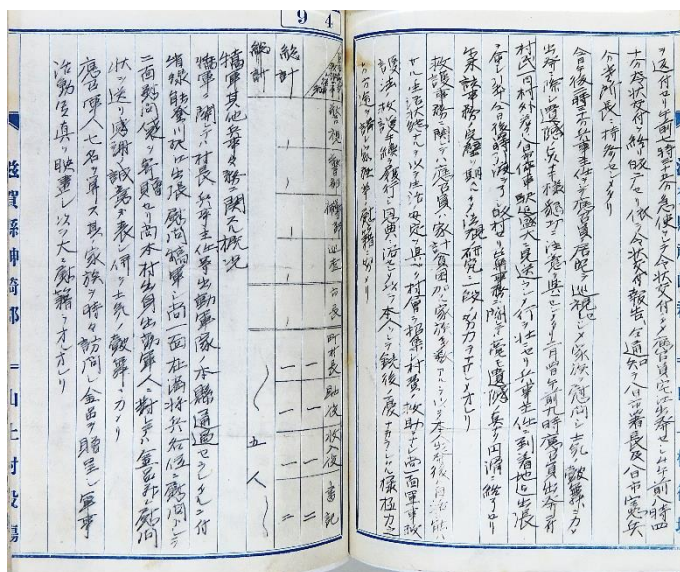
【昭あ64-3(2)】

昭和九年徴兵検査成績		検査日	検査場所	検査時間	検査人員	検査結果
四月十日	午前七時	坂本村	五五	一七一		
四月十一日	午前七時	下坂本村	三三			
四月十二日	午前七時	不村	一〇二			
四月十三日	午前七時	真野村	二二			
四月十四日	午前七時	小松村	三八			
四月十五日	午前七時	石山村	一〇五			
四月十六日	午前七時	和達村	三三			
四月十七日	午前七時	戸村	二二			
四月十八日	午前七時	戸村	二二			
四月十九日	午前七時	戸村	二二			
四月二十日	午前七時	戸村	二二			

1-2「県治概要」

昭和9年（1934年）9月3日

昭和9年に作成された社寺兵事課の業務説明書です。兵事担当は、徴兵や召集、戦病死者遺族や傷病兵に関する事務などを行っていました。説明書では、当年度の徴兵検査の成績は良好であり、前年の昭和8年度は、受検者8,166人中、甲種が2,152人であったと記されています。また、県の陸軍軍人（将校以下）は50,360人、海軍（士官以下）は1,646人であると記しています。【昭す321（3-1）】



1-3「召集・徴発・救護其他兵事事務勤労者調査の件、報告、調書」(神崎郡山上村)

昭和 8 年 (1933 年) 1 月

神崎郡山上村から提出された満州事変に関する召集・徴発・救護に関わった勤労者の報告です。報告書からは、当時の人々がどのように令状を受け取り、出征していったかわかります。早朝、八日市警察署から村役場に召集の予報が届くとすぐに村長をはじめ吏員が参集し、役場で急使からの令状を受け取りました。その令状は直ちに対象者宅へ届けられ手渡されました。午後には村の兵事主任(助役)が対象者宅を慰問し、翌朝、八日市停車駅にて村民総出で盛大に見送りを行ったと記されています。下令後、約 24 時間での出発でした。【昭ひ 1-2 (1-16)】

イ 身体検査		ロ 学力試験	
身長	体重	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
18 年以上	51.7	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
17 年以上	48.8	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
16 年以上	45.5	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
15 年以上	42.3	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
14 年以上	39.1	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
13 年以上	35.8	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
12 年以上	32.5	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
11 年以上	29.2	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
10 年以上	25.9	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
9 年以上	22.6	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
8 年以上	19.3	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
7 年以上	16.0	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
6 年以上	12.7	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
5 年以上	9.4	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
4 年以上	6.1	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
3 年以上	2.8	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
2 年以上	0.5	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
1 年以上	0.2	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)
0 年以上	0.0	代数、幾何(平面幾何)、英語(英文和訳、和文英訳)	及英文法)

1-4「昭和 15 年前期海軍志願兵(甲種飛行予科練習生)の徴募の件」

昭和 14 年 (1939 年) 10 月 25 日

海軍志願兵制度とは、義務付けられた徴兵とは異なり、個人の志願により兵士となる制度です。その中のひとつ、甲種飛行予科練習生は、航空兵の養成期間を乙種よりも短縮するために高い学力が求められました。展示の資料は、昭和 15 年前期甲種飛行予科練習生徴募の文書です。16 歳以上 20 歳未満の中学校第 3 学年終了程度の学力を有する者を対象とし、厳しい身体検査と学力試験が課せられました。戦争末期には人員確保のために志願数の割当が地域ごとに決められ、対象年齢も引き下げられていき、養成期間も短縮されていきます。【昭あ 109 (515)】

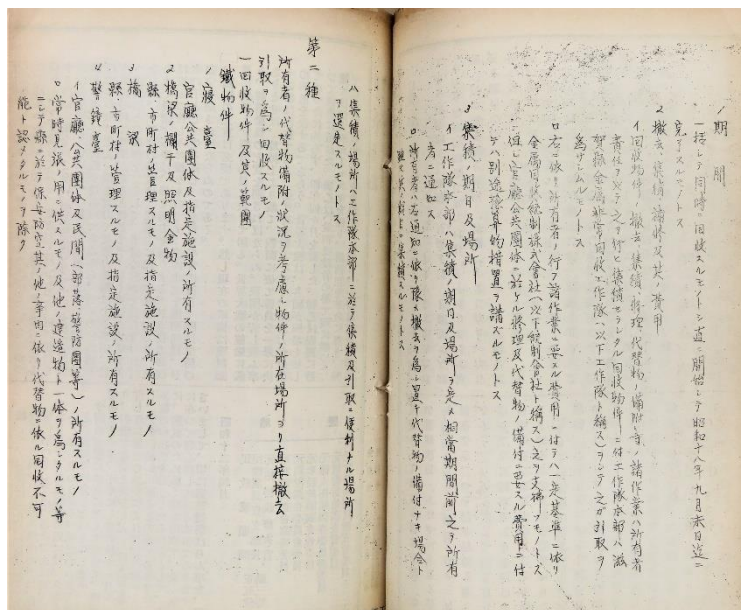
日中戦争下の昭和 13 年 4 月 1 日、国家総動員法が公布されます。これにより、人的・物的資源の動員を政府が議会の審議を経ずに実行できるようになりました。

2-4「滋賀県金属類非常回収実施要綱」

昭和 18 年（1943 年）

武器生産に必要な金属資源の不足を補うため、「金属類回収令」（昭和 16 年）に基づき官公庁や民間から金属類の回収が行われました。昭和 18 年に出した県の要綱では、橋梁の欄干や橋梁そのものも指定されています。集落や警防団等の所有する警鐘台と警鐘も回収の対象とされ、この時期に寺院の梵鐘も供出を迫られました。

【昭お 68 (31)】



工場名	所在地	備考
東洋レーヨン	大津市	
...	...	...

2-5「県内（軍艦、軍需）重要工場一覧」

昭和 20 年（1945 年）1 月

昭和 20 年 1 月時点の県内にあった重要工場の一覧です。東洋レーヨン（大津市）では約 4,000 人の従業員が魚雷部品などを製造していました。そのほかの工場でも航空機の部品や弾丸などが造られていました。同社は同年 7 月 24 日の空襲により大きな被害を受けています。

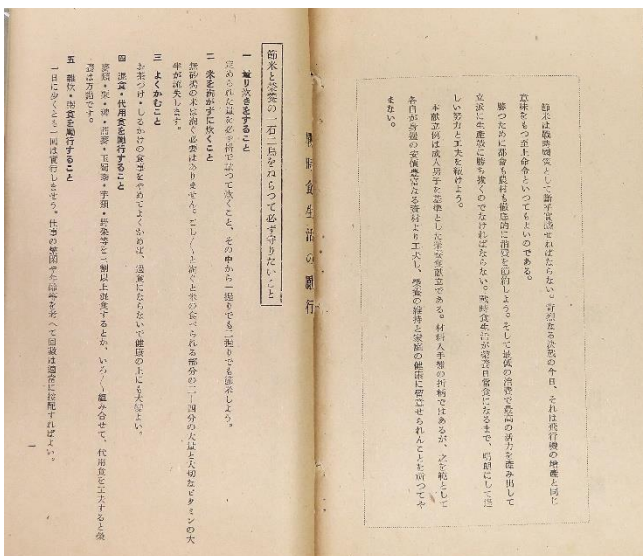
【昭そ 68 (7-3)】

2-6「戦時食生活」

昭和 20 年頃（1945 年頃）

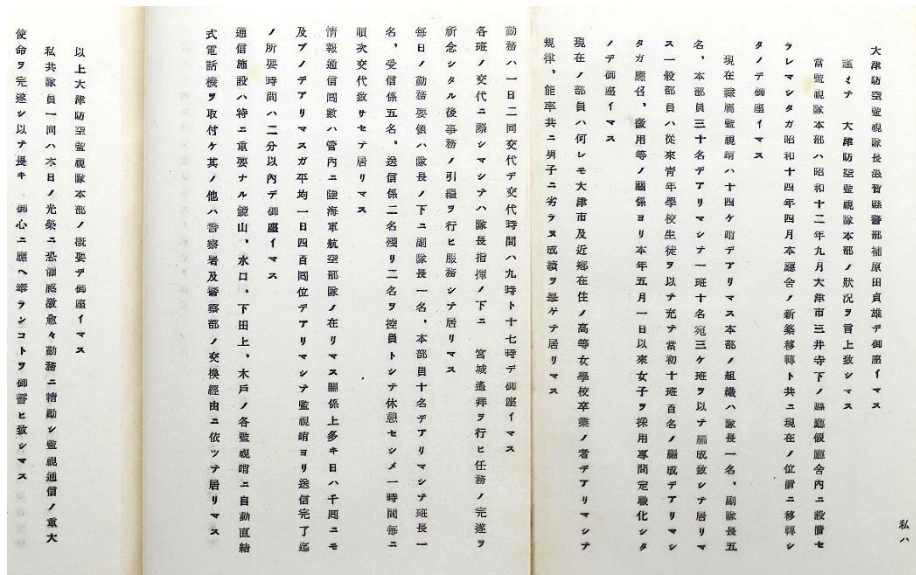
戦時中は、戦地に米を送るため、その消費を節約することが戦時国策となっていました。展示の資料は、節米の方法や混食・代用食の栄養献立例を示したもので、よく噛んで食べることや、粥食・雑炊を励行し、うどん・すいとなどを食べるように推奨しています。また、無砂搗米（搗き粉で精米していない米）は、とがなくて炊くように指示されています。

【昭こ 368(4-8)】



3章 相次ぐ空襲と終戦

昭和 17 年頃から本土空襲がはじまり、昭和 19 年以降は B-29 による本格的な空襲が全国で激化していきます。県内でも昭和 20 年になると空襲の被害が相次ぐようになります。

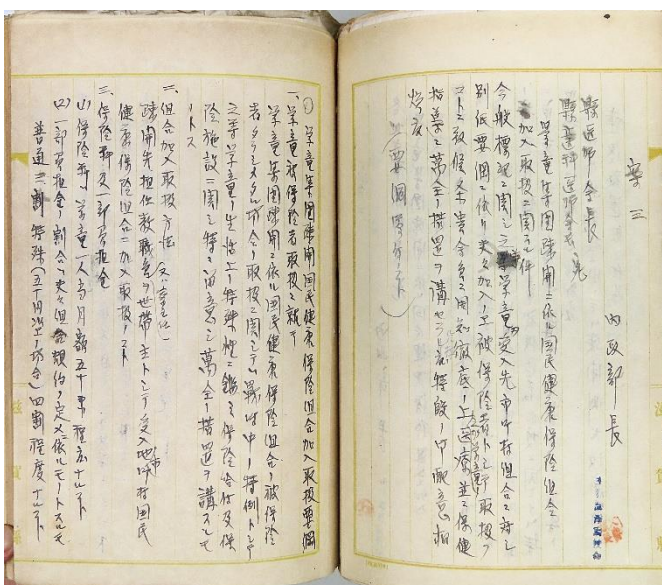


3-1「言上書、大津防空監視隊本部の状況」

昭和 18 年（1943 年）

戦時中は、敵機の発見を目的とした防空監視哨が各地に設けられましたが、その活動のようすが陸軍大将・東久邇宮の視察時の言上書に記されています。当時県内では、大津・米原の 2 か所に本部を置き、22 か所に監視哨を配置していました。大津本部では、従来青年学校生が通信業務に従事していましたが、召集などの関係で、昭和 18 年 5 月からは高等女学校卒業生が従事しました。

【昭か 33（1-2）】

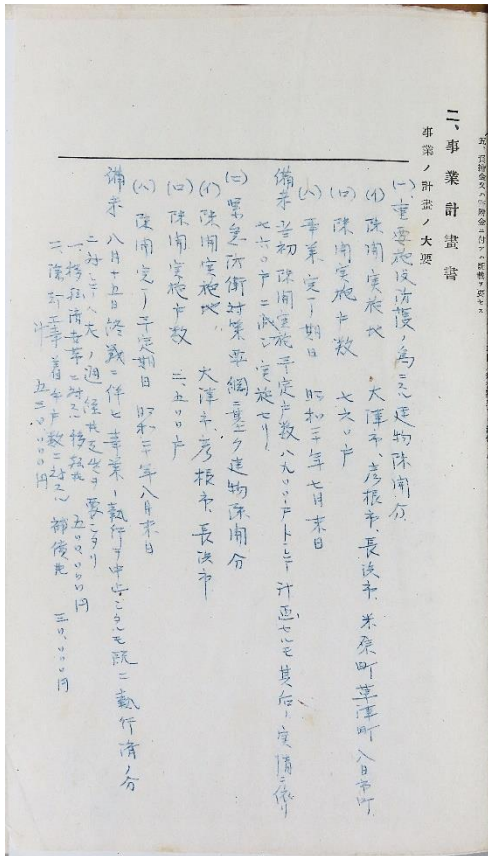


3-2「学童集団疎開に依る国民健康保険組合加入取扱方に関する件」

昭和 19 年（1944 年）10 月 21 日

本土空襲が激化する中、小磯国昭内閣は東京・大阪など 13 都市の国民学校初等科児童の集団疎開を決定しました。本県では、大阪市から教員・児童 11,373 人を受け入れることとなりました。展示の資料は、政府の指示を受けて、戦時特例として疎開児童を受入れ、市町村の国民健康保険組合に加入させることを取り決めた文書です。これにより児童らは、医療給付を受け、医療施設が利用できるようになりました。

【昭そ 65（47-1）】

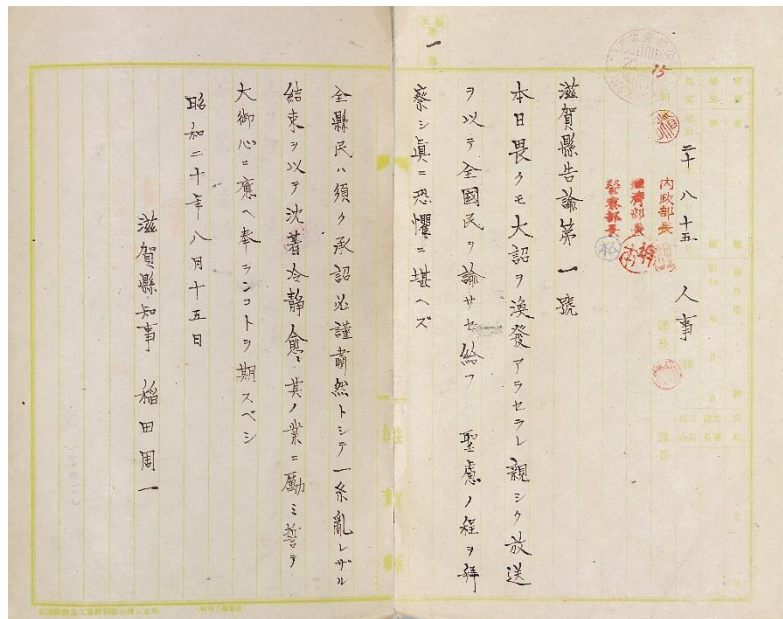


3-3「建物疎開事業借入説明書」

昭和20年(1945年)12月28日

昭和20年7月、重要施設を守るための建物疎開が行われ、大津市の県庁、大津駅、日赤滋賀病院、市役所・滋賀銀行などの周辺9地区のほか、彦根・長浜市、米原・草津・八日市町で7月末までに760戸に立ち退きが要求され、家屋が強制的に取り壊されました。また、その後も激化する空襲から人々を守るために、家屋密集地帯の間引疎開、避難道路造成のための建物疎開等の第2次建物疎開が計画され、8月末までに2,500戸の撤去が予定されていましたが、終戦を迎えて中止となりました。しかし、すでに執行済みの家もあったようです。

【昭く88(5)】



3-4「敗戦の詔勅が放送された件について県民への諭告」

昭和20年(1945年)8月15日

昭和20年8月15日の終戦を国民に伝える玉音放送を受け、当時の知事・稲田周一が発した告諭です。放送当日に出された本告諭は、天皇の言葉に謹んで従い、落ち着いて仕事に励むよう簡潔に述べていますが、後に各学校に出された訓令（昭和20年訓令第20号）では、戦争への反省を述べるとともに、学徒こそが将来を背負い、国家を支える者であるので、その指導に努めるよう今後の展望も述べています。

【昭あ172-5(1)】

4 章 接收された軍用施設

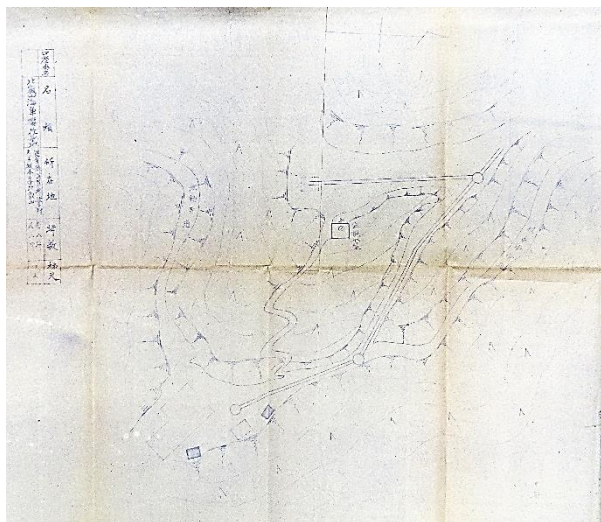
県内の軍用施設は戦後、アメリカを中心とする進駐軍により接收されます。その返還時の資料から、戦時中の軍用施設の様子をみていきます。

[illegible]

4-2「旧滋賀海軍飛行隊疎開隧道図面」
昭和22年頃（1947年頃）

大津にあった滋賀海軍航空隊（航空兵の練習・教育機関）の疎開隧道の図面です。図面の赤色点線が当時の疎開隧道を示しています。隧道は総延長520mで比叡山のふもとの竹林に掘られました。この隧道はただの避難壕ではなく、本土決戦に備えた司令部用地下隧道であったと考えられています。

【昭 06-35 (No. 7)】



4-1 「滋賀県内旧軍用施設一覧」 昭和 23 年（1948 年）

本県にも戦時中様々な軍用施設がありましたが、これらの施設は戦後、アメリカを中心とする進駐軍により接收されます。昭和 22 年頃から旧軍用施設の返還を求める動きが出て、順次返還が実現していきます。展示の資料は、接收された旧軍用施設の一覧です。大津連隊区司令部や饗庭野陸軍演習場、八日市陸軍飛行場などが掲載されています。【昭 06-37 (No. 12)】

4-3 「旧軍用施設台帳（旧比叡山海軍桜花基地）」

昭和 23 年 (1948 年)

昭和 20 年には、比叡山ケーブルの終点付近に特攻兵器の一種である「桜花」の基地をつくる作業が進められていました。「旧軍用施設台帳」の桜花基地のページには「飛行機発射装置但し未完成、未使用」とあります。また、図面【昭 06-35 (No. 6)】上には基地の様子が描かれており、2 本線がレール、○が方向を変える回転台、四角い点線がカタパルトを示しています。 【昭 06-33 (なし)】

— 旧軍用施設位置 —

施設 名称	北朝鮮消毒機元基地	所在地	海発郡 坡本町 大字 坂本			
国土地 院の名称	地測量 院 第五 測量所	測量の 方法	測量の 方法	所有の 材料	測量の 方法	測量の 方法
測量 結果	土地測量 院 第五 測量所	測量の 方法	測量の 方法	所有の 材料	測量の 方法	測量の 方法

(施設の内容、施設名)

北朝鮮消毒機元基地
第五測量所

土地測量 院 第五 測量所	測量の 方法	測量の 方法	測量の 方法	測量の 方法	測量の 方法	測量の 方法
二	二	二	二	二	二	二

(備考)
写真撮影番号:
図面保存番号:

パネル展示 戦争と宣伝

戦時下では、国民の戦意高揚を図るために視覚的に訴えるポスター等による国策宣伝が行われました。その様子が分かるポスターを御紹介します。



「昭和 15 年国勢調査ポスター」

昭和 15 年（1940 年）9 月

戦時下に行われた昭和 15 年の国勢調査は、軍事および国家総動員計画のための事項を多分に含み、「国家総力戦の体制を強化し整備する」ための資料とするため、従来とは異なる点も多くありました。例えば、集計の効率化、正確化のため職名表（約 430 種）の一覧表を事前に各世帯へ配布し、該当する職種の符号と職名を世帯で記入するという方法が採用されました。また国が指定する習得が容易ではない技能や学歴を持つ者の調査項目もありました。

【昭さ 42（78-1）】



「菜種緊急増産宣伝ポスター」

昭和 19 年（1944 年）11 月

兵器を製造するために必要な焼入油や戦闘機の潤滑油に利用するため、菜種の栽培を推し進めるポスターです。「飛行機の血液・潤滑油に！」といった文言とともに戦闘機が飛び立つ絵が描かれています。もう 1 枚のポスターには、菜種を栽培し、戦争に勝利するまでのロードマップが絵を用いてわかりやすく描かれています。

【昭た 532-1（10）】



【参考文献】

- ・水谷孝信『本土決戦と滋賀 空襲・予科練・比叡山「桜花」基地』サンライズ出版、2014 年。
- ・滋賀県史編さん委員会『滋賀県史昭和編第 1 巻 概説編』滋賀県、1986 年。
- ・滋賀県史編さん委員会『滋賀県史昭和編第 2 巻 行政編』滋賀県、1974 年。
- ・滋賀県史編さん室『滋賀県百年年表』滋賀県、1971 年。
- ・『新修 大津市史 6 現代』大津市役所、1983 年。
- ・日本郵政株式会社広報部社史編纂室『郵政 150 年史』日本郵政、2022 年。
- ・国立国会図書館電子展示会「史料にみる日本の近代」2026 年 8 月 17 日調べ。
<https://www.ndl.go.jp/modern/index.html>
- ・滋賀県立公文書館デジタル展示「昭和戦時下の滋賀県民」2026 年 8 月 17 日調べ。
<https://archives.pref.shiga.lg.jp/images/exhibition/PDF/sensou.pdf>
- ・防衛研究所「昭和 100 年特設 Web ページ（ドーリットル空襲）」2026 年 8 月 19 日調べ。
<https://www.nids.mod.go.jp/publication/showa100/showa3/>

【展示関係年表】

西暦	元号	月	日	出来事	資料
1927	昭和 2 年	4	1	兵役法が公布される。	1-1、1-2
1931	昭和 6 年	9	18	満州事変が勃発する(昭和 7 年 3 月 1 日満州国建国。)	1-3
1937	昭和 12 年	7	7	盧溝橋事件が起こり、日中戦争が勃発する。	0-1
1937	昭和 12 年	8	24	国民精神総動員実施要綱が閣議決定する。	2-1
1938	昭和 13 年	4	1	国家総動員法が公布される。	2 章
1939	昭和 14 年	9	1	ドイツがポーランド侵攻を開始する。第二次世界大戦が勃発する。	
1940	昭和 15 年	7	7	奢侈(しゃし)品等製造販売制限規則(7・7禁令)が施行される。	2-3
1940	昭和 15 年	9	27	日独伊三国軍事同盟条約に調印する。	0-2
1940	昭和 15 年	10	12	大政翼賛会が発足する。	
1941	昭和 16 年	4	1	大津連隊区司令部が新設(復活)される。	4-1
1941	昭和 16 年	8	30	金属類回収令が公布される。	2-4
1941	昭和 16 年	12	8	日本軍がハワイ真珠湾を攻撃する。アジア・太平洋戦争が勃発する。	0-3
1942	昭和 17 年	6	5～7	ミッドウェー海戦(中部太平洋のミッドウェー島周辺での日本軍とアメリカ軍との戦闘。)が起こる。	
1944	昭和 19 年	7		マリアナ諸島のサイパン島が陥落する。日本の国土の大半がB-29(アメリカの重爆撃機)の爆撃圏内に入る。	0-4 3-2、3-3
1944	昭和 19 年	8	15	滋賀海軍航空隊予科練習生学校が開所する。	1-4
1944	昭和 19 年	10	20	レイテ戦(フィリピン・レイテ島およびその周辺海域での日本軍とアメリカ軍の戦闘)がはじまる。	
1945	昭和 20 年	2	4～11	アメリカ・イギリス・ソ連がヤルタ会談を開く。	
1945	昭和 20 年	3	9・10	東京大空襲により甚大な被害を受ける。	
1945	昭和 20 年	4	1	アメリカ軍が沖縄本島に上陸する。	
1945	昭和 20 年	5	7	ドイツが無条件降伏する。	
1945	昭和 20 年	5	25・26	空襲で東京都内の大半が焼失する。以降、各地の都市に來襲する。	
1945	昭和 20 年	7	26	米英中がポツダム宣言を発表する。	
1945	昭和 20 年	8	6	広島に原子爆弾が投下される。	
1945	昭和 20 年	8	8	ソ連が対日宣戦を布告する。	
1945	昭和 20 年	8	9	長崎に原子爆弾が投下される。	
1945	昭和 20 年	8	15	天皇が「終戦の詔書」を放送する(玉音放送)。	3-4
1945	昭和 20 年	9	2	日本が降伏文書に調印する。	
1945	昭和 20 年	10	4	アメリカ第 6 軍 136 連隊が大津に進駐し軍政部を設置する。	4 章

展示図録 公文書にみる昭和の戦争の記録

令和 8 年 (2026 年) 8 月 24 日発行

編集・発行

滋賀県立公文書館

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目 1 番 1 号 (滋賀県庁新館 3 階)

Tel : 077-528-3126 Fax : 077-528-4813 Mail : archives@pref.shiga.lg.jp